

鶴見区運営方針・経営課題

- ・平成 28 年度の振り返り
- ・平成 29 年度の取組み



経営課題 1 魅力あふれるまちづくり（つる魅力向上部会）

事業を通じて、「多種多様なイベント・事業が行われているので鶴見区は楽しく面白い、魅力あるまちであると感じる」と回答した区民の割合

業績目標	結果
60%以上	75.8%

つる魅力の創造

〈 28 年度 の 取 組 み 〉

- ・ つるみワールドフェスタ
- ・ TSURUMI ウィンターフェスティバル
- ・ TSURUMI スプリングフェスティバル
- ・ トワイライトコンサート
- ・ TSURUMI スプリングコンサート
- ・ おさかな王国
- ・ 鶴見緑地写真彩
- ・ 鶴見緑地コスプレ Day
- ・ 「発見！！つる魅力」冊子
 転入世帯への配布
- ・ 区の魅力 PR 随時



【 振 り 返 り 】

イベントごとに実施したアンケートでは、目標値を上回った。しかしながら、イベント開催時期の偏りや類似内容によるマンネリ化など、改善の余地を感じている。たとえば、「ウィンターフェスティバル」はこれまで3回実施してきたが、特に創意工夫が必要だと感じた。また、3月にイベントが集中した。

【 29 年度 の 取 組 み 】

- ・ イベントの内容を整理し、効果及び効率の観点から同時開催、時期を変更するなどの見直しをおこなった。（「TSURUMI スプリングコンサート」と「鶴見緑地写真彩」を見直し「アートフェスタ」を開催）
- ・ 「ウィンターフェスティバル」については、事業者の参加要件を緩和し民間事業者の自由な発想やアイデアや工夫が活かされた集客力のあるイベントを開催する。
- ・ また、子どもから大人まですべての区民の方等に鶴見区の歴史やまちの魅力を広める新たな取り組みとして「（仮称）つる魅力検定」を実施する。

「環境」や「花と緑」を

キーワードにした取組みの推進

事業を通じて、「環境に対する意識が高まっている」と感じている区民の割合

業績目標	結果
60%以上	66.0%

〈 28 年度 の 取 組 み 〉

- ・ 環境フェスタの開催
- ・ 環境学習会の開催
- ・ 種花活動の複数拠点化
- ・ 種花活動（春蒔き・秋蒔き）の実施
- ・ 鶴見緑地でのホテルの幼虫放流



【 振 り 返 り 】

・ 種花活動において、鶴見緑地内に新たな「花づくり広場」を増設し、ボランティアの負担軽減や参加者の増加を図った。緑地の広場の参加者からは、「広場までの移動が楽になって良かった。」との意見を多数いただいている。また、緑地と今津のそれぞれの広場の参加者数は、昨年度に比べ増加している。しかしながら、ボランティアの負担軽減や活動しやすい環境づくり、地域コミュニティの拡大を図っていく点には、まだまだ改善の余地がある。

- ・ 環境に関するイベントを、子育て層を主な対象として、わかりやすく親しみやすい内容で実施し、好評を得た。

しかしながら、参加者数が想定よりも少なく、実施内容に創意工夫が必要だと感じた。

【 29 年度 の 取 組 み 】

・ 種花活動において、花の土づくりでの作業の負担軽減等、ボランティアの意見をお聞きしながら、活動しやすい環境づくりを図っている。

- ・ 新たなボランティアの増加をめざし、緑地の花づくり広場で講習会を実施するなど、種花活動のPRを推進していく。
- ・ 地域での子どもたちとの花植え等による交流を実施し、地域のコミュニティづくりを図っていく。
- ・ 環境フェスタについて、民間企業等との連携・協力のもと、親子で楽しみながら環境の大切さを感じていただける内容で実施する。

経営課題 6 区役所力の強化（つる魅力向上部会）

区役所が実施している広報媒体の認知度

業績目標	結果
90%以上	91.7%

様々な広報媒体を活用した情報発信

〈 28 年度の取組み 〉

- ・ 広報紙全戸配布 毎月
- ・ HP、フェイスブック、ツイッターによる区政情報等の情報発信
- ・ 鶴見区掲示板、区内地下鉄・JR 駅構内、ショッピングモールでのポスター掲示、チラシ配架
- ・ 小学校を通じたイベント・区政情報等の発信
- ・ 青色防犯パトロール車等を活用した情報発信
- ・ 地下鉄駅壁面への区 PR シート掲示
- ・ HP リニューアル



【振り返り】

広報紙の認知度は 91.7% と高まっているが、広報を通じて区政への理解や関心が高まったと感じる区民の割合が 60.6% であり、特に若い世代(20 代)において低いため(40.2%)、若い世代に合わせた有効な広報媒体をより積極的に活用し、分かりやすくきめ細かい情報発信に努める必要がある。

【29 年度の取組み】

- ・ HP、フェイスブック、ツイッターによる情報発信（対象 主に 10 代～40 代）
- ・ 動画（ユーチューブやフェイスブック）による区政情報配信（対象 主に 10 代～40 代）
- ・ 区内高等学校との協働による LINE スタンプの制作（対象 主に 10 代～20 代）

地域活動の活性化と

自律的な地域運営の支援

「地域活動協議会の取組み等地域活動への理解が進んだ」と回答した区民の割合

業績目標	結果
60%以上	68.5%

《 28 年度の取組み 》

- ・ 会計の透明性に向けた勉強会
- ・ 地域活動団体に交付した公金の使途を区 HP で公表
- ・ 各地域への広報活動に助言・指導
- ・ 地域活動や地域の魅力などの情報発信



地域活動協議会
情報コーナー



大人の社会見学 &
mini つるばた会議
3回開催 参加者251人



幅広い地域活動協議会
広報誌集
年3回発行 発行部数500部/冊



つるばた会議10
3月12日開催 参加者20人

【振り返り】

- ・ アンケート結果は目標値を上回った。
- ・ しかし、地域活動への参加や関心が十分な広がりを見せておらず、地域活動の新たな担い手の確保も大きな課題となっている。
- ・ また、地域活動協議会への補助金に関する会計処理について、地域活動協議会の組織運営における会計の透明性の確保といった観点からも、引き続き支援が必要である。

【29 年度の取組み】

- ・ 幅広い世代が、地域活動協議会の活動に参加し活動の状況を知ってもらうことが、ひいては新たな担い手確保にもつながると考え、広報分野に関して、引き続き中間支援組織と連携し支援を行う。具体的には、地域活動や地域の魅力など、様々な情報を収集・把握し、情報発信を行うとともに、各地域活動協議会において、紙媒体だけでなく電子媒体（HP・フェイスブック）を活用し、幅広い世代をターゲットとした情報発信が行えるよう、広報支援を行う。
- ・ 引き続き会計勉強会を開催し、会計処理方法について知識を深めていただくとともに、会計の透明性の確保といった観点から、各地域活動協議会において事業予算や決算などについて、広報紙や HP を活用した情報発信ができるよう、各地域の状況に合わせた支援を中間支援組織と連携し行う。

経営課題5 健康で安心したまち（地域コミュニティ・保健福祉部会）

講演会を通じて高齢者や障がい者に対する
理解を深めたと感じる区民の割合

高齢者・障がい者への理解の啓発等

業績目標	結果
70%以上	90.0%

【28年度の取組み】

- ・ ふれあいフェスタの開催 1回
- ・ 障がい者相談支援に関する研修会
- ・ 医師会主催の講演会「区民で支えよう認知症」に協力
- ・ 認知症に関する多職種協働グループワーク
- ・ 事例検討会 12回開催



難関区障がい者相談支援センター講演会
平成28年10月20日(土)
参加者 50人



区民で支えよう認知症講演会
平成28年10月29日(土)
参加者 200人



つながりふれあいフェスタ
平成28年12月17日(土)
参加者 100人

【振り返り】

高齢者・障がい者が地域で安心して暮らすために、区民の正しい理解の普及や関係機関のスキルアップと密な連携が必要であり、これらを目的とした講演会や研修会、関係事業に取り組んできたところである。しかし、今後ますます高齢者・障がい者が増えていくことが考えられる中で、理解の普及や関係機関のスキルアップ、また、関係機関の連携がさらに求められる状況になることが考えられる。



【29年度の取組み】

高齢者・障がい者が地域で安心して暮らしていくために、正しい理解が深まるための取組みや支援機関等関係機関のさらなるスキルアップとその連携に向けて取組みを推進していく。

- ・ 高齢者、障がい者への理解を深めるための講演会等の開催
- ・ 地域包括支援センター職員等へ的高齢者福祉関係研修会・事例検討会の開催
- ・ 障がい者支援関連の研修会等の共催
- ・ 福祉資源マップの作成（高齢者支援と障がい者支援関連機関で検討し作成する。）

地域福祉力の向上

地域のつなげ隊、ふれあい員を知っていると答えた区民の割合

業績目標	結果
50%以上	26.6%

有償ボランティア制度（あいまち）を知っていると答えた区民の割合

業績目標	結果
50%以上	32.0%

【28年度の取組み】

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業の推進

- ・ コミュニティソーシャルワーカー設置 3名
 - ・ 各地域に地域福祉コーディネーター(つなげ隊)を配置 12名
 - ・ 広報紙での「つなげ隊」紹介 1回
 - ・ 各地域の福祉活動に対する助成
 - ・ 有償ボランティア制度の定着
 - ・ 広報紙での事業周知 2回
 - ・ 講演会 1回
 - ・ はじめての「あいまち」講座 4回連続講座HPでの情報発信 随時
- 要援護者見守りネットワーク強化事業との協働
- ・ 要援護者対象者（高齢者・身体1・2級）1,406名に同意確認文書を送付し、返送により「同意」「不同意」の確認を行い、要援護者名簿の作成を行った。うち「同意」の得た方のリスト（658件）を各地協及び民生委員協議会に提供
 - ・ 孤独死リスクの高い要援護者の見守り：相談延べ1,486件（うち訪問651件）
 - ・ 認知症高齢者等徘徊時メール配信：事前登録者27名 協力機関14件



有償ボランティア「あいまち」ボランティア活動の様子



有償ボランティア制度「あいまち」PRグッズ



地域福祉コーディネーター「つなげ隊」の皆さん

【振り返り】

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業は、事業初年度として、順調に推移した。有償ボランティア制度も利用者の満足度も高く、会員も増加している状況である。しかし、目標にしている数値には上記のとおりいずれも届いておらず、より必要な方に情報が届くように、認知度を上げていく必要がある。



【29年度の取組み】

認知度の向上に向け、広報つるみの掲載等これまでの取組みに加え、SNSを活用したPR等積極的に行うなど効果的な広報を行い、幅広い世代への周知に努める。

健康増進意識の向上

健康づくり事業に対する満足度

業績目標	結果
70%以上	88.0%

《28年度の取組み

- 健康まつり・食育フェスタの同時開催
- ウォーキング教室の開催
- 健康に関する講演会『食育講演会』 1回



健康まつり&食育フェスタ

10月1日開催
参加者1,000人



鶴見区食生活改善推進員協議会(へルスマイ)さんの活動の様子



ウォーキング教室
講師 石田 忍 氏
11月16日開催
参加者45人



食育講演会「災害時の食について考えよう！」
講師「坂本麻子 氏」
3月8日開催
参加者165人

【振り返り】

イベントごとに参加者へのアンケートを実施した結果、どのイベントも目標値を上回った。平成28年度は、隔年開催の健康まつりと毎年開催の食育フェスタを同時開催することで、昨年度の食育フェスタ単独開催に比べて参加者数が約2倍となるなど大きな成果があったことから、今後も健康に関するイベントを食育フェスタと同時に開催できる方法を検討する必要がある。また、ウォーキング教室については、参加者の満足度は取り組み事業の中で最も高いものの、参加者数が減少傾向にあるため、募集方法や事業内容の改善が必要だと感じた。



【29年度の取組み】

幅広い世代の方が健康づくりへの動機づけとなる啓発事業を目標に、食育フェスタと同時開催として、新たに『健康展』として大阪市のすこやかパートナー企業等と協働で開催し、幅広い世代に興味のあるイベントとする。

また、ウォーキング教室については、1回講座を2回の連続講座とし、2回目を鶴見緑地で屋外のコースで開催するなど、より実践的な講座としてリニューアルするとともに、周知広報についてもチラシ配布箇所を増やすなど多くの方に参加いただける講座として実施していく。

経営課題3 次世代育成に向けたまちづくり（こども教育部会）

子育てについて「楽しいと思うことの方が多い」と感じる区民の割合

業績目標	結果
65%以上	69.0%

子育て支援の充実

《28年度の取組み》

- ・「愛 Love こどもフェスタ」の開催 1回
- ・「つるみっ子ルーム」の利用率 97%
- ・地域や関係者等と連携した児童虐待防止啓発活動の実施 20回
- ・児童虐待防止学習会・講演会等の開催 3回
- ・関係局との保育ニーズ検討会議 2回
- ・保育環境の充実に向けた園への働きかけ 26 保育所



愛 Love こどもフェスタ
5月20日開催
参加者800人



愛 Love こどもフェスタ



つるみっ子ルーム事業親子参加型講習会
3月2日開催
参加者14組の親子



つるみっ子ルーム事業

【振り返り】

イベント時に実施したアンケートでは目標値を上回った。しかしながら、様々な子育て施策に取り組んできたが、平成29年4月現在で多くの入所保留児がいるなど、保育ニーズを含めた子育て支援へのニーズが引き続き高い状況にある。

【29年度の取組み】

多様な教育・保育施設や地域の子育て支援事業の中から、自分の家庭に一番ふさわしいメニューを個別のニーズに応じて選択し、円滑に利用できるよう、「鶴見区幼稚園・保育所等情報フェア」を9月2日（土）に実施し、保護者と施設が直接話をしてもらえらる場を設け、待機児童解消につなげていきたいと考えている。

地域と連携した青少年の

健全育成の取組み

《28年度の取組み》

- ・高校軽音ライブクリーンプロジェクト
- ・青少年健全育成鶴見区民大会
- ・こどもの環境ととのえ隊（鶴見緑地公園内夜間巡視）
- ・青少年カーニバル



青少年健全育成鶴見区民大会
7月3日開催（鶴見区民センター）
参加者約700人



青少年カーニバル
10月10日開催（鶴見緑地）
参加者約1,200人



こどもの環境ととのえ隊
8月9日実施（鶴見緑地）
参加者約50人

【振り返り】

中高生が日頃の活動成果を発表する場が減少した。各事業が青少年健全育成として有効な取組みであるため、引き続き家庭・学校園・地域と連携した取組みが必要であると考えます。

【29年度の取組み】

- ・高校軽音ライブクリーンプロジェクトの会場数を3会場から4会場に増やし、より多くの高校生の活動発表の機会を提供し実施した。【5月7日（日）鶴見緑地】

28年度 18校 36組の参加 29年度 24校 48組の参加

公園内の清掃範囲を拡大してクリーン活動を実施

- ・青少年健全育成鶴見区民大会の2部を中学校吹奏楽部が活動発表できる場として提供した。【7月9日（日）鶴見区民センター】

各事業が青少年健全育成としての有効な取組みになっていると回答した参加者の割合

業績目標	結果
65%以上	88.7%



高校軽音ライブクリーンプロジェクト
5月1日開催（鶴見緑地）
参加者約1,000人

学校や地域、保護者の意見が反映する取組みが進んでいると思う、学校協議会委員の割合

教育の支援の充実

業績目標	結果
50%以上	89.5%

《 28年度 の取組み 》

- ・ 区政会議の部会
- ・ 教育行政連絡会（学校長と区役所による連絡調整、協議の場） 小・中学校 各3回
- ・ 学校協議会 市立幼稚園、小・中・高校(20校園)にて各3回
- ・ 校長会・教頭会への参画 毎月1回
- ・ 校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援 17校
- ・ 発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援 14校



教育活動サポート事業
【課外活動のサポート】

小・中学校 411万8千円

漢字能力判定に向けた
取組み支援事業

小学校 26万4千円

ICT機器購入
【デジタル教科書・プロジェクター
スクリーン・書画カメラ等】

中学校 151万8千円

【振り返り】

小・中学校に在籍する発達障がい等のある児童・生徒に対してサポーターを配置し、学校生活における行動面を支援しているが、学校からの申請に対して十分な時間を配置できていない。

【29年度 の取組み】

小・中学校に配置している発達障がいサポーターの稼働時間を拡充し、学校生活を支援している。

予算額及びサポーター配置時間	平成28年度	2,016千円	2,076時間
----------------	--------	---------	---------

	平成29年度	4,010千円	3,922時間
--	--------	---------	---------

サポーター配置人数	平成28年度	25人	平成29年度	41人(6月16日現在)
-----------	--------	-----	--------	--------------

異文化・英語に親しむ

英語や外国に対する関心が高まったと回答した参加者の割合

業績目標	結果
60%以上	98.3%

- ・ 異文化交流（小学生対象） 4回
- ・ 中学生と留学生の英語による交流事業 5回



小学生の異文化交流事業
英語であそぼう



小学生の異文化交流事業
スリランカ



中学生の英語交流事業
歌やゲームで楽しもう



中学生の英語交流事業
国連環境計画UNEP専門官を迎えて

【振り返り】

参加者からは好評であったが、参加者が毎回約15名程度と少なく、成果を享受できるのは、一部の子どもに限られている。

【29年度 の取組み】

- ・ 平成29年度から小学校低学年においても英語活動が開始されることを受け、中学生英語交流事業の講師による小学校での英語活動の取り組みや、英語教材（絵本・DVDなど）を購入するなど、小学校の授業における英語活動の積極的な展開を図っている。
- ・ 青少年カーニバルとつるみワールドフェスタを同日開催し、より多くの子ども達が異文化にふれる機会を創出する。

学校と社会を結ぶ

「夢・未来創造事業」を通じて、興味、関心が高まったと回答した参加者の割合

業績目標	結果
60%以上	96.0%

《 28年度の取組み 》

- ・ 青少年「夢・未来」講座の開催
9校（延べ99回）



J:COM
報道番組



牛乳石鹸共進社(株)
手洗い教室



UNEP国際環境技術センター
環境問題



ミズノ(株)
走り方教室

【振り返り】

企業等が出前授業を実施できる回数に限りがあるため、学校からの要望に対して、対応できない場合がある。

【29年度の取組み】

協力企業等を増やしたり、新たなメニューの授業を展開できるよう企業等に働きかけ、より多くの児童・生徒が体験できるように取組んでいる。

〔新たな協力企業等〕

大阪ガス(株)(環境学習・防災学習)・汎愛高校ダンス部(ダンス教室)・鶴見消防署(防災学習)

〔新たなメニュー〕

ミズノ(株)(ボールの投げ方、幅跳び)

経営課題4 安全なまちづくり（防犯・防災部会）

交通安全に関する知識が高まったと感じる区民の割合

地域・関係機関と連携した

防犯対策事業

区で実施している防犯事業を知っていると回答した区民の割合

業績目標	結果
50%以上	89.3%

〈28年度の取組み〉

- 防犯カメラの設置 32台
- 防犯推進委員を中心に、各地域団体・関係機関が連携した区内一斉防犯活動
- 区役所・警察署・各地域防犯組織（青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員等）による合同連絡会の実施
- 自転車の2重ロックを推進するため、毎月26日を「26（ツーロック）の日」として啓発に取り組みとともに、鍵の取付けキャンペーンを実施12回
- 中学生防犯標語コンクールの実施



区役所・警察署・各地域防犯組織との合同連絡会の開催
平成28年4月20日開催
区：鶴見区老人福祉センター



区内一斉防犯活動の実施
職員3名含む
区内13地域で実施



「2重ロックの日」キャンペーンの開催
毎月26日実施
12回



中学生防犯標語コンクール
応募総数970点

【振り返り】

- 防犯への取り組みを行った結果、街頭犯罪7手口の件数は788件と前年に比して59件減少した。
- 「区で実施している防犯事業を知っていると回答した区民の割合」は89.3%であったが、認知度の低い事業もあるため、今後も引き続き防犯に関する情報を広報紙やホームページ、フェイスブック、ツイッターなどで発信し周知していく必要がある。



【29年度の取組み】

- 鶴見警察署と連携した取り組みを行っていくことになった。
- 犯罪抑止に有効な防犯カメラの設置について、引き続き30台の設置を行う。また、「防犯カメラ作動中」のプレートを設置し、より一層犯罪抑止効果が上がるようにしていく。
- 昨年度実施した防犯標語の作品等をバナーにし、区役所前に設置することで、防犯の取り組みを区民に広く知ってもらい、防犯意識の向上を図る。
- 街頭犯罪の9割を占める車上ねらい、部品ねらい、自転車盗を減少させるため関係機関や区内事業所等の協力を得ながら取り組みを行う。
- 防犯の取り組みを広く周知するため、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどを活用して情報を発信していく。

地域・関係機関と連携した

交通安全対策事業

業績目標	結果
60%以上	95.4%

〈28年度の取組み〉

- 子育て層への交通安全教室
- 高齢者への交通安全研修会
- 園児への交通安全教室
- 警察署、区内の学生と協働した自転車マナーアップキャンペーン
- スケアードストレート学習（スタントマンを活用した交通安全教室）
- 小学生交通安全絵画コンクール
- 転入者への駐輪場マップの配布
- 放置自転車啓発活動



子育て層への交通安全教室
平成28年10月11日実施
鶴見区長センター



園児への交通安全教室
平成28年10月11日実施
鶴見緑地・1次駅



小学生交通安全絵画コンクール
応募総数 20人



放置自転車追放キャンペーン
配布版
（鶴見・今川橋東・豊出）
配布員各1日実施

【振り返り】

- 各所で年齢層に合わせた交通安全教室などを行った結果、交通安全に関する知識が高まった区民の割合が95.4%であった。
- スケアードストレート学習を鶴見緑地で行ったが、より多くの方が参加してもらえるよう周知方法や実施内容の工夫が必要である。



【29年度の取組み】

- スケアードストレート学習について、区の北部と南部で2回開催するが、こども会やPTA、老人会などの団体にも広く周知し参加を呼びかける。
- 駐輪場マップに掲載する民間駐輪場の情報について、区職員による掘り起しとホームページなどでの募集により随時更新を行っていく。
- 放置自転車追放キャンペーンを引き続き地域と協働して行い、駐輪場マップの配布と合わせて放置自転車減少につなげる。
- スケアードストレート学習など、取り組みの情報について、Youtube やツイッターなど様々な媒体を活用して広く発信し、周知を行う。

区民の安全・安心を担う

総合的な防災力の強化

防災等に対する理解が高まったと感じる
区民の割合

業績目標 結果
80%以上 95.4%

〈 28年度の取組み 〉

- ・ 避難所開設運営訓練等 12 地域
- ・ 鶴見区安全・安心フェスタ
- ・ つるみんピック
- ・ 小・中学生を対象とした防災学習会 4 校
- ・ 出前講座 10 回



避難所開設運営訓練・
防災講座の実施
区内12地域で実施



鶴見区安全・安心フェスタ
10月23日開催
参加者 9900人



防災競技会「つるみんピック」
3月12日開催
鶴見緑地



出前講座の実施
10回実施

【振り返り】

- ・ 12 地域において、地域の特性に応じた避難所開設訓練や防災学習会への支援を行った。
- ・ 防災競技会「つるみんピック」を鶴見緑地で開催し、防災リーダーの技術向上・士気の高揚に努めた。しかし、来場者が少ないため増やす工夫が必要である。
- ・ 各地域や区での防災の取り組みについて周知が図れていないため、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどで発信する必要がある。



【29年度の取組み】

- ・ 12月に開催予定の「鶴見区安全・安心フェスタ」において、防災士の資格を持った著名人を講師に招くことで、防災に関心が薄かった区民の参加を促すとともに同日、参加体験型ブースを展開し、防災について学習してもらう。
- ・ 「つるみんピック」開催についての周知をホームページ、フェイスブック、ツイッターなどで広く行うとともに、会場の設営を工夫して鶴見緑地の来場者の取り込みを図る。
- ・ 大雨など災害発生時の様々な情報について、タイムリーにフェイスブックやツイッター等を使って区民に広く発信していく。
- ・ 各地域にトランシーバーを配備し、災害時の通信手段をより強固にする。